

4. 高速横浜環状南線（圏央道「金沢～戸塚」）の必要性（現状の問題点）

①横浜市南部地域の渋滞緩和

県内の道路渋滞による損失時間は、年間で1km当たり76.0千人時間となり、全国ワースト3位です。（表4-1）

また、渋滞損失時間の大きい区間は、横浜市、川崎市周辺に集中し、混雑が著しくなっています。（表4-1）

表4-1 都道府県別の渋滞損失時間
（上位10都道府県）

都道府県名	1km当たりの損失時間 （千人時間/年間・km）	全国 順位	関東 順位
東京都	136.7	1	1
大阪府	107.7	2	—
神奈川県	76.0	3	2
埼玉県	53.5	4	3
愛知県	49.2	5	—
沖縄県	41.2	6	—
千葉県	40.5	7	4
宮城県	36.2	8	—
静岡県	34.4	9	—
京都府	32.1	10	—

資料：『H11道路交通センサス及び国土交通省調査（旅行速度：平成13年度、走行台キロ：平成14年度）に基づく』

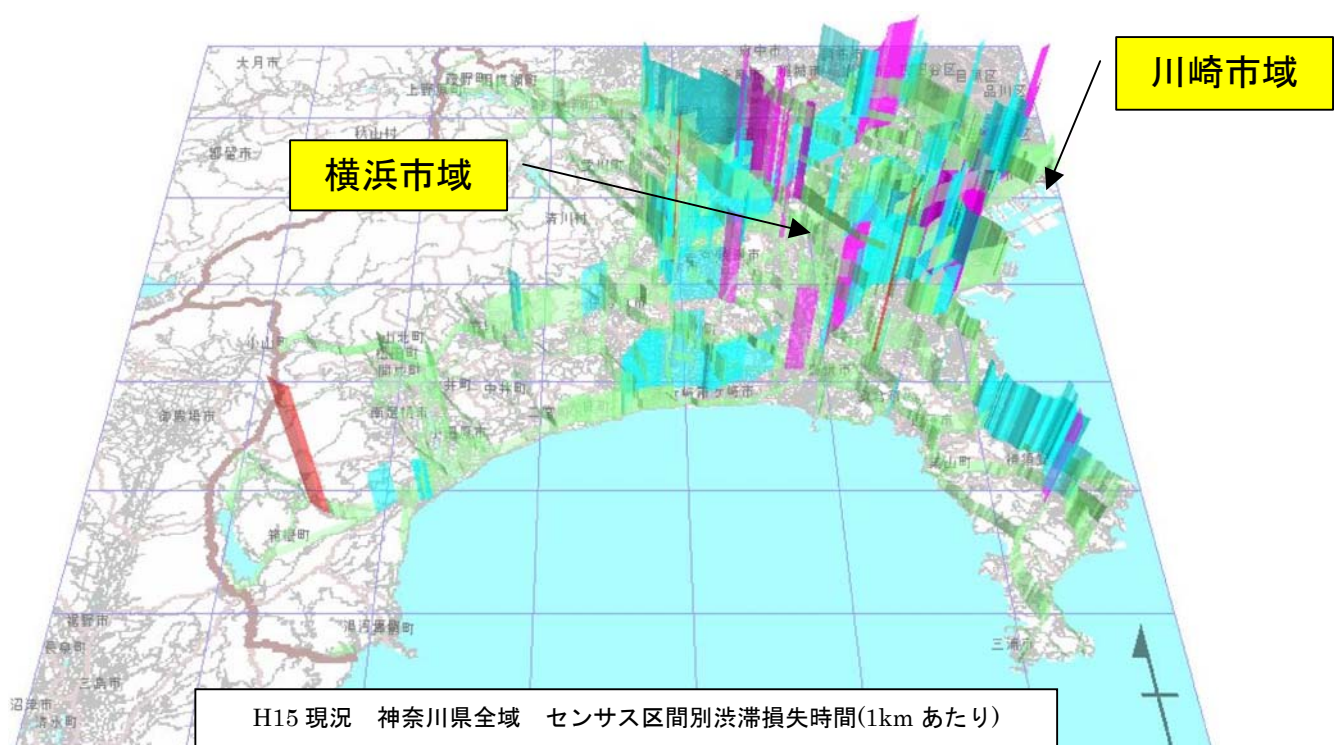


図4-1 1kmあたりセンサス区間別渋滞損失時間

○内陸部から湾岸部への交通転換

内陸部を通過する国道1号の交通の2／5は通過交通であり、横浜市内の交通混雑緩和のために、国道1号等内陸部から湾岸部へ交通を転換させることが必要である。



②周辺道路の渋滞緩和（その１）

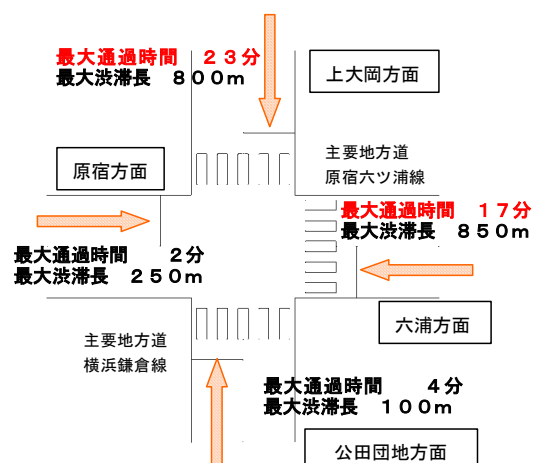


「金沢～戸塚」沿線の混雑状況

○公田交差点

主要地方道原宿六ツ浦線に主要地方道横浜鎌倉線が合流する十字路であり、慢性的に渋滞する状況となっています。

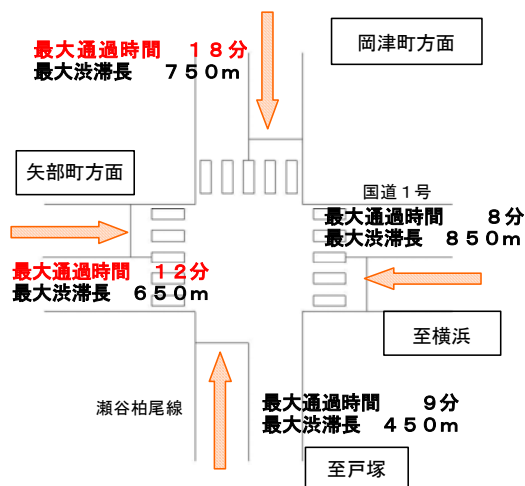
公田団地方面へ向かう交通が最大渋滞長800mとなっており、交差点を通過するのに23分を要する状況となっています。



○不動坂交差点

国道1号に県道瀬谷柏尾線が合流する十字路となっており、慢性的に渋滞する状況となっています。

戸塚方面へ向かう交通が最大渋滞長750mとなっており、交差点を通過するのに18分を要する状況となっています。



注) 図中では、主要渋滞ポイントの定義に該当しているものを赤で表している。

一般道路（D I D内）：最大渋滞長 1,000m以上
通過時間 10分以上

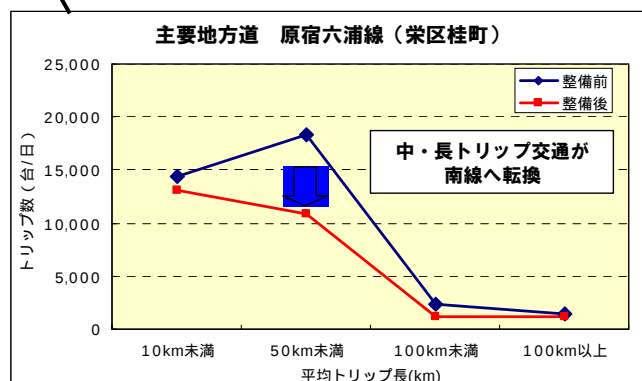
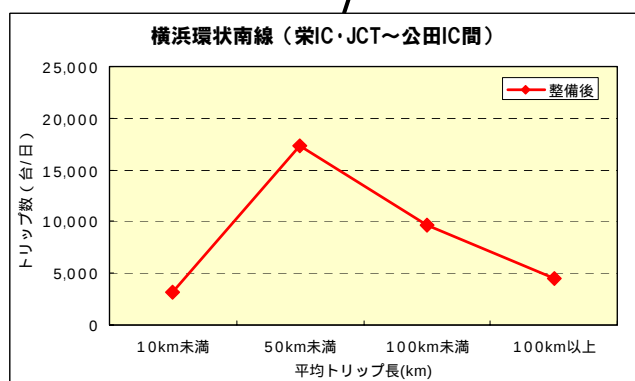
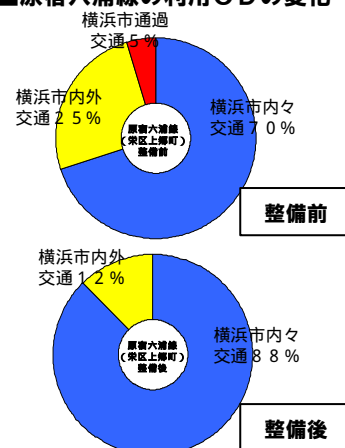
出典：主要渋滞ポイント
(第3次渋滞対策プログラム H10 策定)

②周辺道路の渋滞緩和（その２）

周辺道路からの高速横浜環状南線に中長距離トリップ交通を転換し、
周辺道路の渋滞緩和・大型車交通の減少を図る。



■原宿六浦線の利用ODの変化



■混雑度・大型車混入率の変化

	実測値	整備後
原宿六浦線 (栄区上郷町)	混雑度 1.69	0.57
	大型車混入率 16.5%	9.1%

実測値はH11道路交通センサス

○将来の道路網の設定

現在の道路計画に横浜環状南線と同時期に完成すると見込まれる路線を加えたもの